



いずみ

No.76

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 46



《渚へ》

神田 比呂子

(2 ページに「作者の言葉」)

自作自選 46

作者の言葉

「とうや湖ぐるっと彫刻公園」に設置したいと壮瞥町から依頼があって作った石膏原型である。当時、私は女子短大の研究室で一人のびのびと作品を作れた。「海の渚に向かう若い女性」という想定。モデルは当時、礼文島の小学校に赴任していた三女の紅（こう）。

（1932 年生まれ。東京芸大彫刻科卒。全道展会員、旭川・神田美術館主宰）

タイトル：《渚へ》

制作年：1994 年

材質：石膏

サイズ：H192×W70×D65mm

設置場所：神田美術館（旭川市）

連載 宮の森の四季 46

本郷新記念札幌彫刻美術館

新しい環境で

学芸員 平井 菊花

今年 4 月より、本郷新記念札幌彫刻美術館学芸員に着任いたしました。昨年度までは札幌芸術の森美術館で勤務し、前任の山田のぞみさんと入れ替わるかたちで、今回初めて異動のはこびとなりました。

前職では、ファインアートからサブカルチャーまで、また、北海道美術から西洋美術まで、本当に多彩な展覧会を経験させていただきました。お客さまの層はさまざまでしたが、「非日常を求めて訪れる特別な場所」として芸術の森に親しんでくれた方が多かったように思います。

一方で、当時の業務量と自身の経験不足から、南区の四季のうつろいを味わう余裕もなく慌ただしく過ごしてしまったことを口惜しくも思います。今は美術館そばの宮の森緑地の藤棚と野外彫刻との美しい取り合わせが見られることを心待ちにしています。

着任してまだ 2 ヶ月余りですが、ご来館くださるお客様や近隣にお住まいの皆様、そして友の会の皆様とお話しするたび、たくさんの方々が当館の活動や本郷新の作品に、心を込めて丁寧に向き合ってくださいていることを実感します。

日本の美術館はどうしても企画展が中心になりがちで、日常利用してよい場というイメージが薄いかもしれません。しかし、無目的な散歩の途中で、心の休憩場所として彫刻美術館に立ち寄ってもらえたらと思うことがあります。そんな「日常の同一線上にある美術館」の在り方を、未熟ながら在任中に模索できればと考えています。



「芸術広場」と「アルテ市民」

加藤 知美

(アルテピアッツァびばい事務局チーフ)

炭鉱町の小学校跡を再生し、自然と芸術の調和する空間が人々を魅了する「安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄」は来年30周年を迎えます。旧体育館に彫刻を展示し、屋外に数点設置してのささやかなオープンから少しずつ空間が広がり、今なお創り続けられています。設置者である美唄市が指定管理者制度を導入したのは今から15年前。以来、認定NPO法人アルテピアッツァびばいが管理運営に携わり、毎朝の彫刻清掃、夏は草刈り、冬は除雪、そして来訪者対応が主な仕事です。かつて炭鉱に暮らした人々の記憶が刻まれたこの場に、アルテピアッツァづくりに関わった人たちの熱い思いが重なり、過去から現在へ受け継がれているこの空間を未来へ繋ぐことが私たちの使命です。

アルテピアッツァはイタリア語で芸術広場。「広場」をコンセプトにこの空間を創り続ける彫刻家・安田侃氏の思いを受け止め、2005年のNPO設立総会で「アルテ市民」という概念が提唱されました。イタリアでは都市の「広場」は、音楽やパフォーマンスなどの文化はもちろん、表現や議論、コミュニケーションを通じて、自立した市民を生み育てる場所。人々は「広場」を愛し、生活

空間の一部とし、そこに行けば誰かに会える、なくてはならない存在です。「アルテ市民」は、アルテピアッツァを度々訪れる人、遠方から訪れ「また来ます」と帰る人などが、心のふるさととして次世代にバトンをつなぐ思いが共通項です。ポポロの愛称で約550人が登録し全国各地から心を寄せてくださいます。

家庭でも職場でもない、心地よい第3の居場所をサードプレイスと言いますが、多様な人々が社会的立場に関係なく交流できることから、お互いに心を通わせ、生活に潤いを与え、心豊かな社会を創造する効果があるとされています。「アルテ市民」の方々を見てみると、美唄の「芸術広場」はサードプレイスの役割をそなえていると感じます。カフェアルテで会話を楽しむ人もいれば、一人静かに散策し彫刻と向き合う人もいて思い思いの時間を過ごします。

安田侃氏は、20周年に寄せた文章に「夢を追っての20年間、多くの人の思いが優しさを内包した場に育んでくれました」と記しています。時には見知らぬ同士の自然な会話からゆるやかな交流が生まれる「広場」は、彫刻と自然と人が織りなす稀有な空間です。

小樽の再生を「地域ブランディング活動」で考える 「北海道デジタル彫刻美術館」にも応用を

井尻哲男（会員）

小樽は日本の将来を考えていく上で興味深い街である。戦前、短い期間ではあったが、輝かしい経済的成功と、終戦直後から続く長い経済的停滞、そして将来予想される深刻な衰退。その姿は戦後日本の過去・現在・未来の姿と重なる。従って、今後小樽で望ましい未来を構築していくことができるのであれば、日本の将来にとっても益するヒントが多くあると信じている。

そして以前から、心ある小樽の人の幾人かは、この現状に危機感を覚え、地域再活性化の具体的処方箋を提案してきた。出版が三十年以上前に遡るが、1985年発行の『小樽の歴史的環境活用による地域振興の研究』（北海道地域計画・建築研究所刊）という著作もそんな一冊である。著者は建築家の藤本哲哉氏。偶然同書を目にした私は、その先見性と視野の広さには衝撃を受けた。

確かに時代的制約から、ここには「都市の老い」や産業政策等々の論及が欠落しており、小樽の将来を考えていくうえで、内容の補正が必要ではあるが、その提言の大枠は、今でも有効性を保っている。

私はこれを機縁として、昨年一月、この藤本氏の仕事に再度光を当て、氏の存在を小樽市民や市関係者に知ってもらうとともに、既存の枠にとらわれない形で、私なりの小樽の再生の可能性について、問題提起を思い立ち、雑誌への掲載を準備した。し

かし藤本氏の長期入院や、コロナにより関係者インタビューが中途半端な形で止まっているため、執筆は進んでいない。



藤本哲哉「小樽の街並み」素描

しかし、座しているだけでは芸がないので、現在は一人でも進められる作業として、小樽の地域ブランディング（ここでは地域内外の人々を引きつけるその文化的価値）を見いだすため、当時の新聞や膨大な各種資料の精読を通して、小樽の唯一無二の価値の掘り起こしを行っている。これにより、微力でも、失われつつある市民の連帯の復活や、地元に興味を示す若者を増やすきっかけになればと思う。

ところで札幌彫刻美術館友の会では、今年四月より関係者の尽力で、北海道の野外彫刻 3,150 点を WEB で公開するという全国でも例のない画期的な試みをスタートさせた。その用途は多様であるが、最終的には、これもまた、北海道の芸術活動やその彫像が示す歴史的意味合いを通して、道の価値を日本のみならず世界に広める、ブランディング活動といえると思うが、如何だろうか。

館長交代 本郷新記念札幌彫刻美術館

新館長に吉崎元章氏就任 寺嶋弘道前館長は有島記念館長へ

2016年から館長を務めた寺嶋弘道氏が4月の人事でニセコの有島記念館館長へ就任、彫刻美術館の新館長に吉崎元章氏が着任した。吉崎館長に抱負などを聞いた。



——館長就任にあたっての抱負を。

札幌芸術の森美術館で長く学芸員として彫刻や札幌の美術に関する展覧会を多く手掛けたほか、前任の札幌文化芸術交流センターでも札幌のこれからの文化芸術について深く考えることができた。その経験を生かして彫刻美術館の魅力をさらに深めるような仕事をしたい。

——彫刻美術館の運営方針について

この美術館には何回も足を運んでいたが、館長として内側からこの館の持っている可能性を感じた。本郷新の1771点に及ぶ所蔵作品はもとより、北海道を代表する建築家の手による魅力的な空間でもあり、まだまだ研究の余地が多分に残る膨大な資料、近隣やボランティアの方々の温かい支援、美

術館を愛する職員のホスピタリティーなど、この美術館だからこそできる活動を通して美術館としての存在感を強めていきたい。特に本郷新についての新しい切り口によって現代的な価値を見いだしていきたい。

——友の会とのかかわりは…

デジタル彫刻美術館や彫刻清掃、会報発行をはじめ、彫刻を愛し、地道な活動を続けていることには頭が下がる。美術館が単独で出来る範囲は限られるので、それぞれの得意とするところを出し合いながら、より多くの人々が彫刻に親しみ、楽しんでもらえるよう一緒に取り組んでいきたい。

1962年、留萌管内苫前町生まれ。教育大札幌分校特設美術課程卒。1986年、札幌芸術の森準備期から学芸員。2008年、同館副館長。18年、札幌文化芸術交流センターSCARTS プログラムディレクターを経て現職。

寺嶋弘道前館長からのメッセージ

花束を贈るころ

退任直前の3月7日の講演会《「芸術」の陰謀》の終了後、思いがけず花束をいただいた。友の会の橋本信夫会長から手渡され、記念撮影に及んだ時、熱いものがこみ上げてきた。

実は講演会の当日の心境は花束を贈られる立場とは真逆であった。今日、スライドを用いてのレクチャーはしばしば「プレゼン」と呼ばれる。プレゼンテーション(発表、説示)の略で、すなわちプレゼントのことだ。聞き手に対して「贈る気持ち」がないと、プレゼンは成功しない。だから、その日は会場入りの直前まで、スライド選びに迷い、言葉探しに難渋していた。

展覧会でもプレゼンは重要な要素である。並べる順番、背景の色、台座の大きさなど展示の仕方によって見え方が変わってくる。長文の解説や小さなキャプションは論外。作者や所蔵者の思い、あるいは企画意図をどう伝えるかが重要なのである。

思えば4年前の「アフリカの仮面と彫像」展では、橋本信夫、邦江夫妻旧蔵のコレクションがたっぷり飾り付けられ、いつもと違う異形の造形物が空間を圧倒した。そして、夫妻による講演会や友の会会員によるウェルカムトークなどのイベントの開催。贈る気持ちにあふれた展覧会を実現できたと思ひ返す。再び友の会の皆さんと一緒に何かできないかと思案しているうちに、退任の時期となった。これまでのご支援とご協力に改めて御礼申し上げたい。

2021年度総会中止

コロナ禍で2年連続

議案要旨を会報に掲載

議案1 「2020年度活動報告」 デジタル彫刻美術館公開

「北海道デジタル彫刻美術館」が1月に公開され、友の会HPで検索可能になったほか、医療雑誌「ケア」に新シリーズ「北海道野外彫刻美術マップ」を連載。コロナ禍で彫刻清掃活動も大きな影響を受け、大通ロータリークラブと提携した大通公園の彫刻清掃など4回にとどまった。美術館支援活動としての図書整理は蔵書3千冊の分類整理が終了、新たに本郷新のスクラップブックのデータベース入力作業が始まった。このほか、赤平市への彫刻清掃協力、夕張市への「採炭救国坑夫の像」の修復指導など対外活動も積極的に行った。恒例の新年会、バス旅行は中止となった。

議案2 「決算監査報告」 決算額 751,096 円

収入合計は751,096円。内訳は繰越残高438,732円、会費265,000円など。支出総額358,984円で会報印刷費88,520円、通信費(会報発送など)132,117円、デジタル彫刻美術館立ち上げ技術協力費25,000円などが大所。ほかに会場費、ロッカー使用料、彫刻清掃用具費などが主な支出。繰越残高は392,112円で内訳は普通預金(運

友の会の2021年度総会はコロナ感染拡大のため昨年につき、2年連続の中止に追い込まれた。感染者数急増が収まらず、公立施設が休館になるなどの社会状況の中、総会4日前のギリギリの判断だった。議案の要旨を会報に掲載する。予定した山田のぞみ氏の講演会は後日、機会を見て実施を検討する。

営準備金)338,678円、郵便貯金47,191円。4月28日、関堂安司、園部亜佐子両監査が適切な処理であることを確認した。

議案3 「2021年度活動計画」 「彫刻美術マップ」の冊子化

5月8日に予定した総会と講演会は中止。スタートしたばかりの「北海道デジタル彫刻美術館」の内容充実、管理運営体制の確立が課題となるほか、医療雑誌「ケア」の連載継続、さらに同誌に2018年から19年にかけて連載した「札幌彫刻美術マップ」の冊子化計画の実現が課題。野外彫刻清掃保全活動、彫刻学習会、会報「いずみ」発行、ホームページの随時更新などを例年通り実施する。美術館支援活動は本郷新のスクラップブックのデータ入力継続ほか、本郷新のブロンズ像ワックス塗りにも取り組む。新たに小規模な人数による「野外彫刻を訪ねて」を2回程度実施の予定。

議案4 「2021年度予算案」 収支総額967、112円

収入総額は967,112円で繰越残高392,112円のほか会費収入270,000円のほか、バスツアー、新年会収入などを見込んでいる。一方、支出は会報など印刷費

(110,000円)、会報発送費(120,000円)バスツアー、新年会(各15,000円)などを計上、支出総額は967,112円を見込んだ。

議案5 「役員改選」 退任5人、新人2人

2年に一度の改選では長峯慰子、佐藤美保子、斎藤ミサヲ、船本のりえ、大関元規の5氏が退任した。新たに藤倉まゆみ、小笠原悦子の2氏が新任となった。

彫刻美術館友の会役員

(2021年～2022年)

顧問	原子 修 國松明日香
会長	橋本 信夫
副会長	大内 和 高橋 大作
事務局担当	奥井 登代 常田 益代 猪股 岩生 高橋 淑子 松原 安男 細川 房子 岩崎恵美子 押野記代子 井尻 哲男 太田 雅人 永喜多宗雄 米澤 修吾
	(新) 藤倉まゆみ (新) 小笠原悦子
監査	関堂 安司
監査	園部亜佐子

「デジタル彫刻美術館」に反響続々

「道新」「NHK」で紹介



友の会がインターネットで公開した「北海道デジタル彫刻美

術館」が北海道新聞に掲載され、NHKでも取り上げられたことから道内はもとより本州からも反響が寄せられている。

地元紙「道新」は4月10日、夕刊全道版1面トップの扱いで報じた。「野外彫刻3150点、ウェブに収蔵」の主見出しに「道内巡りコツコツ30年」「保全の広がり期待」の縦横2本の見出しを添え、友の会の取り組みを細かく伝えた。また、5月3日のNHKラジオの全国放送でも第1放送「マイあさだより」(5:15～)でレギュラーのリポーターを務めているアルテピアッツァ美唄の加藤知美さんが友の会の活動と共にデジタル彫刻美術館の内容を紹介した。

このほか6月には橋本会長が道内の民放ラジオ「A

I R-G'」に会員の高橋淑子さんと出演、作成までの労苦などを語った。

コンクリート表面保護剤 ニューフェイスが登場

これまで札幌・中島公園にある《猫とハーモニカ》(山内壮夫制作)などコンクリート彫刻の保全に使っていた「パーマシールド」剤がメーカーの製造停止で使えなくなり、代替の新製品が札幌市緑の推進部から友の会に寄贈された。

新しい材料はアイゾールテクニカ社の「アイゾールEX」。特殊アクリル酸エステル樹脂を主成分とし、水性塗料で一液性のもの。取り扱いが容易で、これまでより美しい仕上げが期待できるという。

武蔵野美大黒川弘毅教授論文発表 〈木下成太郎像〉の保全で

札幌・中島公園の〈木下成太郎像〉の修復保全再生活動に力を入れ、友の会の活動にも指導的協力を惜しまない東京・武蔵野美術大の黒川弘毅教授がこのほど同大の「武蔵野美術大学研究紀要」に論文を発表した。

論文は「北の武蔵野美術

大学創立90周年記念《木下成太郎先生像》の保存／再生」と題した正統2編。

正編の「朝倉文夫作《木下成太郎先生像》の建立と残留について」では木下像の設立経緯、歴史的背景ほか戦時下の金属回収をめぐる動きなどにも論及している。

続編では「木下像保存運動の開始と札幌彫刻美術館友の会」の表題で友の会の彫刻清掃活動から同像の保全活動が始まる経緯を丹念に詳述している。中でも同大卒で友の会会員として保全運動を積極的に推進した故亀谷隆氏の功績にも触れ、友の会の会報「いずみ」に寄稿した論稿を数多く引用、紹介している。また、全体を通して研究者らしい視点で木下像の破損状況を豊富な写真とデータを使って論述している。

論文には会報「いずみ」が掲載した木下像関連記事が多数引用され、修復・保全活動に友の会が積極的にかかわった様子がうかがわれる。

◇おことわり「友の会つぶやきコーナー」は休みました。

事務局日誌

▼2021年3月11日＝定例役員会(エルプラザ)デジタル彫美運営体制、会報76号企画▼17日＝彫刻学習会(エルプラザ)道新記者デジタル彫美取材に▼29日＝会報75号発行、発送(エルプラザ)インターンシップ生体験参加▼4月10日＝道新夕刊にデジタル彫美の記事掲載▼15日＝定例役員会(エルプラザ)総会議案、日程など準備打ち合わせ▼21日＝友の会三役が彫刻美術館に吉崎元章新館長訪問▼30日＝総会議案作成、印刷(エルプラザ)役員改選の検討▼5月3日＝コロナ感染者急増で持ち回りの三役会で総会中止を決定。

編集後記

▼コロナウイルスの猛威は一向に衰えず、ついに今年の総会も開催出来なかった。一年の活動を総括する場面がないまま新年度に入らざるを得ない状態が2年続いた▼どんな活動を目指すのか。議案の要旨を「友の会ニュース」で要約したが、果たしてこれでいいのか、うまく内容を伝えられたかどうか。来年はこんな悩みは願い下げにしたい。(大内)

札幌彫刻美術館友の会

会報「いづみ」 No.76

2021年7月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30)

011-884-6025)

印刷 山藤三陽印刷

会報「いづみ」76号 目次

自作自選46 《渚へ》	神田比呂子	表紙
宮の森の四季46「新しい環境で」	平井菊花	・・・ 2
風見鶏「芸術広場とアルテ市民」	加藤知美	・・・ 3
寄稿「地域ブランディング活動」	井尻哲男	・・・ 4
レポート「彫刻美術館館長交代」		・・・ 5
友の会ニュース		・・・ 6-7
2021年度総会議案／道新がデジタル彫美報道／彫刻清掃に新塗布剤／黒川武蔵野美大教授が論文発表		
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか		・・・ 8

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本館

■開館40周年記念展

「宮の森にある美術」

7月3日(土)～8月31日(火)

宮の森・円山地区を拠点に制作した美術家たちを紹介する展覧会。一方で、この地区に暮らす美術愛好家たちの蒐集品にも焦点を当てる。ひいては、作り手側と受け手側とがそれぞれに築いたこの地区固有の美術文化史をひもとくことを試みる。

記念館

■本郷新・全部展④

100の石膏像

開催中～2022年4月10日(日)

美術館所蔵の石膏像364点のうち、野外設置のための4寸級の大型の彫像から細やかな造形美に触れられる小像に至るまで100点を厳選して紹介。ブロンズ像の鑄造工程にあって重要な役目を果たしながらもあまり語られることのない石膏原型像の魅力に迫る。

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください

<https://sapporo-chokoku.jp>